

科目名	材料強度学特論	英文表記	Advanced Strength and Fracture of Materials	2012年3月3日		
科目コード	6107					
教員名: 政木 清孝 技術職員名:				作成		
対象学科/専攻コース	学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
創造システム工学専攻・機械システム工学コー	専2	選	学修	2単位	講義	前期
科目目標	線形破壊力学の基礎を理解し、材料の破壊メカニズムに関する知識を身に付けさせる。					
総合評価	期末試験では破壊力学に関する最新の論文を調査してA4で2ページ程度の概要を作成し、各自10分程度の発表を行う。試験は口頭試問とする。					
達成度目標と評価方法	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法		
	①	破壊力学を理解し、その他の専門分野と体系的に関連づけて理解できる。(A-4)	⇒	期末試験で行う口頭試問において、その要約版の内容から理解できているか評価する。		
	②	破壊力学に関する最新の論文内容について吟味・理解し、理論に基づく批判的な思考力を身につける。(B-4)	⇒	期末試験で行う口頭試問での説明内容から批判的思考力ができるか評価する。		
	③	事故が起きたとき、技術者としてなにをしなければならぬか理解できる。(C-2)	⇒	講義中、適宜問いかけを行い、その返答内容で理解力を評価する。		
④	他人に対してプレゼンテーションできる能力を身につける。(C-4)	⇒	学生に論文紹介を実施させることでプレゼンテーション能力を評価する。			
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	機械システム工学
	○		◎		JABEEプログラム教育目標	A-4, B-4, C-2, C-4
授業概要、方針、履修上の注意	材料の破壊メカニズムを理解するための基礎となる線形破壊力学について講義する。期末試験では破壊力学に関する最新の論文を調査してA4で2ページ程度の概要を作成し、各自10分程度の発表を行う。最新の専門的知識を身につけさせると共に、明瞭で的確な表現によるプレゼンテーション技術、および学術文章作成能力を身につける。試験は口頭試問とする。					
教科書・教材	破壊力学(小林英男:共立出版) (他にも参考図書を探す場合のキーワード:材料強度学, 破壊力学)					
授 業 計 画						
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容			自学自習 (予習・復習)内容
1	講義の概要	2	授業の概要や進め方について説明する			
2	材料の破壊	2	材料の破壊と強度に関して復習する			テキスト2章
3	エネルギー開放率	2	エネルギー平衡・エネルギー開放率などについて学ぶ			テキスト3章
4	応力拡大係数 I	2	き裂先端の応力場について学ぶ			テキスト4章
5	応力拡大係数 II	2	応力拡大係数について理解を深める			テキスト4章
6	応力拡大係数 III	2	応力拡大係数の実例について学ぶ			テキスト4章
7	き裂先端の塑性域と開口変位 I	2	き裂先端の塑性域について学ぶ			テキスト5章
8	き裂先端の塑性域と開口変位 II	2	き裂先端の開口変位について学ぶ			テキスト5章
9	き裂先端の塑性域と開口変位 III	2	き裂先端の開口変位について理解を深める			テキスト5章
10	破壊靱性と破壊抵抗 I	2	破壊靱性の基礎について学ぶ			テキスト6章
11	破壊靱性と破壊抵抗 II	2	各種破壊靱性について学ぶ			テキスト6章
12	破壊靱性と破壊抵抗 III	2	平面ひずみ破壊靱性について学ぶ			テキスト6章
13	破壊制御設計 I	2	機器の構造健全性について学ぶ			テキスト7章
14	破壊制御設計 II	2	非破壊検査と保証試験について学ぶ			テキスト7章
15	破壊制御設計 III	2	破壊制御設計について学ぶ			テキスト7章
期末	期末試験	[2]				
16						
17						
18						

19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
期末	期末試験	[]	
学習時間合計		30	実時間
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)			22.5
① 期末試験で行う口頭試問用の論文要約			標準的所用時間(試行)
			60
備考欄			
(共通記述) ・ この科目はJABEE対応科目である。 (各科目個別記述) ・ この科目の主たる関連科目は別表参照。			

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)